図書館だより

埼玉県立図書館

33号

五百羅漢

寄居町の少林禅寺裏山に、羅漢石仏群がある。その数五一〇余体と言われている。山頂に至る細道に沿って笑みをうかべ、あるいは、大あくびをし、また、頬被りをして人々の訪れるのを待っている。

春は暖かい陽光を受けて、夏は青々とした草々の蔭から、秋は紅葉の映えを受けて、冬は白い雪に埋もれて、人々のくらしの平穏を祈っている。

石仏の安置は天保三年（一八三二年）といわれており、一五五年の歳月を経て、一体一体の羅漢様は我々に語りかけてくる。怒り、悲しみ、喜びを連ねて、人間の迷いは果てることがない。人は心の安らぎを求めてまたこの山を登る。

この五百羅漢は、寄居町末野、秩父鉄道波久礼駅から東方二キロメートルにある。

昭和62年10月1日　編集・埼玉県立図書館広報委員会
発行・埼玉県立浦和図書館　館長　杉山泰之
浦和市高砂3－1－22　☎（0488）29－2821

読書の喜びを伝えるために

倉林初男

高校で読書指導を考えるとき、いつも思い出す資料が二つあります。一つは、或る研究者の作成したもので、TVの普及と子供達の読書量が反比例して行くことを示すグラフです。私もそのグラフに表わされた昭和二十～四十年代に成人していますので、他人事とは思えませんでした。このグラフから推測して、TVゲームやファミコン、レーザー・ディスク、ビデオ等の流行する現代は、子供達の読書には、一層不幸な時代になっている筈です。もう一つの資料は、私がほぼ毎年教室で調べている「夏休みに読んだ本」というアンケートです。この集計には、予想通り手ごたえのある本を敬遠して、年々安易軽薄に流され、出版社の商法に手もなく乗せられている気の毒な現状が表われています。生徒の大多数は、読書を全くの娯楽として割切っていて、その精神的意義を重視する世代と大きく隔っています。

しかし、こうした悲観的な状況だからこそ、読書の意義を尊び、積極的に次の世代へ伝えようと様々な実践に取り組んでいる方もまた多いと聞きます。私もそうした人々の後について、身に沿う範囲で具体的な実践をしてみたいと考えていました。

私は高校で国語と図書館を担当していますので、読書指導の一環として先ず「読書会」を取り上げてみました。一般に読書は極めて個人的な行為と見なされていますが、集団読書の場で、感想や意見を交換することは、自己表現の訓練を兼ねる〝もう一つの読書〟として有意義だと考えたからです。その際、実践のポイントが、教師の権威で高い所から生徒に本の読み方を教えるというのでなく、生徒同志の話し合いの中から読書を大切と思う気持ちを育てられるかどうかにあると考えました。読書会に取り組んで十年余りになりますが、運動としての安定も得られ、読書の現状を変革するのに有効な一方法であることが確認できたので、今後は利用指導や読書記録の分野も研究してみたいと考えています。

ところで、様々の高校生と出会うちに、この生徒達は読書に関してどのような少年期を送って来たのだろう、という疑問が生じました。直接尋ねたり文章で答えてもらったりするのですが、いま一つ全体像が見えません。ここがわからないと読書指導も国語の授業もピントが外れてしまいます。漠然と中学校へ転職してみようかと考えたり、せめて我が子の成長を通して見究めようなどと思っているところへ、児童図書館「わかあゆ文庫」を作るのに協力しないか、という声がかかりました。渡りに船と参加したのは言うまでもありません。それが昨年の正月のことで、一年間の準備の後、今年一月十八日に開館できました。

この文庫を運営してみて、以前から知りたかった高校生になるまでの読書の実態が段々とわかって来ました。書店と図書館の無い農村地帯というこの地区の基本的な条件が、私の育った頃のままなので、観察と推論に大きな誤差はないとして、その具体例を挙げてみます。

創作絵本の個性的な世界に入れず、TVマンガやいわゆる名作絵本しか見ようとしない子供の後ろには、読み聞かせを十分にせず、発達段階に応じて本を選ぶことの出来ない大多数の両親がいます。おそらく、「本を読むより畑仕事」と言われて育った世代の人々です。その子供達は小学生になっても好奇心を粗野なままに放置するので、妖怪・オバケ・心霊ものにいつまでもとどまり、知的好奇心への脱皮が出来ず、心の深い所で学問を志向する芽が育ちません。また、読書体験が乏しいので本を主体的に選ぶだけの内的規準が育たず、わけがわからないままに本嫌いになるのです。そして、天性読書が好きな子が居ても、周囲に本が豊富でないのと、学年が進むに従って受験勉強に追われて、折角の才能も停滞してしまうのです。事実、文庫に来る中学生は絶無です。

私は今、わかあゆ文庫で見聞していることを整理して教室の高校生の背景に置き、彼等にとって意味のある読書指導のシステムを作ろうとしています。また、文庫に通う幼児達が中学生になっても読書の習慣を忘れないように育つための手伝いをしたいと思っています。

（高校教諭・秩父市在住）

県内図書館めぐり

滑川町立図書館

森林公園の町にオープン

滑川町は、ゆるやかに起伏する比企丘陵の中央部にあります。東武東上線森林公園駅の開業、国営武蔵丘陵森林公園の開園に伴い、純農村から田園都市へと変貌し、昭和五十九年には、町制が施行されました。

滑川町では、昭和五十四年に条例により、コミュニティセンターの一室に図書館を設置すると共に、県立図書館の運行する移動図書館によりサービスを行ってきましたが、独立館の開設により、専用の施設で専任の職員が行う図書館サービスが可能になりました。

四月一日にオープンした図書館は通産省の工業再配置促進費補助金の交付を受けて建設されたもので、一階のサービスフロアーには一般閲覧室、児童閲覧室、お話コーナー、新聞・雑誌コーナーが配置され、自然彩光を取り入れた明るいフロアーになっています。

二階には読書室、視聴覚室が設けられ、以前から活動している読書会や、子供達を対象とした映画会など多様な事業への活用が期待できます。

開館時の蔵書は、児童書約八千冊、一般書約一万冊となっています。今年度は、資料費として七百五十万円を計上しましたが、今後は一般書を充実させると共に、町民の関心にこたえられるような蔵書構成の計画も必要となるでしょう。

その他の蔵書

新　聞　六紙・雑誌　三十八誌

紙芝居　三百組

施設の概要

構造　鉄筋コンクリート造二階建

延床面積　九三五㎡

所在地　比企郡滑川町大字福田七六三―三

TEL　〇四九三―五六―三四三三

毛呂山町立図書館

親しみのある図書館に

四月十五日にオープンした図書館は、毛呂山町の中央にある出雲伊波比神社の近くに位置し、毛呂駅（JR八高線）に隣接しています。

「明るく、利用しやすく、親しみやすい図書館」をモットーにして設計された建物は、駐車場から一階の一般開架室までは段差がなく、車椅子で来館される方も利用しやすいように配慮されています。外壁は、淡いベージュでまとめられ、内装も明るく仕上げられています。また、外からは、児童室で子供達が読書をしたり、紙芝居を見ている様子や、プラウジングルームで新聞、雑誌を読んでいる人達のくつろいだ雰囲気を窺うことが出来ます。

二階にある視聴覚室、会議室は、利用者のニーズに合わせて、学習室として開放したり、展示スペースとしても兼用できるようになっています。

新館の開設を機に、コンピュータも導入され、貸出・返却の手続き、リクエストは迅速に処理されるようになり、更に講演会、CDコンサート、映画会、お話し会などの行事も企画されるなど、より充実した図書館サービスが出来るようになりました。

昭和六十年十月の建設着工以来、町民の関心は高く、広い分野の教育機関として期待されています。

施設の概要

1　敷地面積　二八五二・六八㎡

2　延床面積　一六二九・二六㎡

3　鉄筋コンクリート造二階建

4　一F　一般開架室・児童室・BM作業室・BM車庫・コントロールデスク

二F　事務室・参考調査室・会議室・視聴覚室・閉架書庫

所在地　入間郡毛呂山町岩井二六九八

TEL　〇四九二―九五―一〇一五

埼玉の文学
埼玉の歌人 ①

三ケ島　葭子

其ノ二

大正十二年九月一日、関東大震災。翌十三年三月、夫が愛人と転居し、葭子は孤独に棲んだ。四月、古泉千樫に従って「日光」の同人となる。八月、脳溢血をおこし右半身不随となる。約三ケ月間病床に臥す。その間、娘みなみが所沢小学校より転校し、葭子の世話をする。文字も書けず口もほとんど聞けなくなり、作歌は自ずから絶えた。十四年二月、文字も書けるようになる。十五年、胸に変調がある。五月、古泉千樫のもとに同門十二名と「青垣会」を結んだが、月例会にはついに出席することがなかった。

昭和二年、葭子四十二歳。元旦より三日間多量に喀血する。三月二十五日午前十一時脳溢血再発し昏倒。二十六日午前十一時三十分死去。その最後を吉屋信子は『三ケ島葭子の一生』に次の様に書いている。

「さくらにはまだ早い日だった。その日の午前十一時過ぎ――彼女の独居へ葭子の良人Kからの生活費を託された水産会の老小使が訪れて格子戸を開けると、玄関二畳と六畳の間の閾にまたがって葭子が昏倒していた。（略）

医師は注射その他の手当をしたが、一語も発し得ぬ昏睡状態のままだった。その時、玄関の格子戸がまた開いて、葭子の娘みなみが現われた。この少女は埼玉県立川越高等女学校の入学試験合格を母に知らせに、喜び勇んで所沢から出て息せき切っていま谷町の母一人棲居の格子戸に手をかけたのだった。

『母さん、入学試験大丈夫だったの！』みなみは母の耳に口寄せて二三度繰返すと、母はかすかにうなずいたようだった……。

翌日午前、やや意識がついたようで、もの言いたげにするので、みなみが紙と筆を母の手に支え持たせると『シホユ』と乱れがちに書き『ノミタイ』とまた書いた。

みなみが塩湯をつくって口許につけ飲ませようとしたが、もう母は湯を吸う力もなかった。そしてまもなく呼吸が絶えた。四十二歳の生涯はそこに終る。

故人遺愛の小机の上の書きかけの歌稿に残された、いまは（絶詠）となった一首は――

あたたかになりけるものか夕ぐれて見れば火鉢の火は消えてあり」

二十九日、霊南坂教会でキリスト教による告別式。四月、遺骨を所沢町（現・所沢市元町）実蔵院の倉片家の墓に納める。法名は浄貞妙芳大姉。『日光』六月号が葭子追悼号として刊行された。

昭和六年十一月、改造社「現代短歌全集」の「三ケ島葭子集」が刊行される。九年三月、青垣叢書第九篇として「三ケ島葭子全歌集」が立命館出版部より刊行。二十三年には創元選書として「三ケ島葭子歌集」が刊行（二十六年再版）される。三十二年には筑摩書房「現代日本文学全集」「現代短歌集」に「三ケ島葭子集」が載録された。

昭和三十三年十一月、郷土所沢市の有志により、所沢市神明町の神明神社境内に、葭子の歌碑が建てられた。

しみじみと障子すぐらきまどのそと音立てて雨のふりいでにけり

吉屋信子は「三ケ島葭子の一生」で言う、「――あの谷町の小暗き階下の部屋にひとり起伏しのあけくれの感慨である。彼女はたしかに薄幸の女であり妻であった。けれども人生苦の底からこそ、しみじみと人の心に沁み入る歌が生れて、かく後世までその歌は生きるとしたら――芸術という魔神は人間の苦悩や不幸を吸って花を咲かせて微笑むのであろうか……」と。

昭和六十一年九月、葭子生誕百年を記念して、所沢市三ケ島の中氷川神社境内に、地元有志により第二の葭子の歌碑が建てられた。

はるのあめけぶるけやきのこずえよりをりをりつゆのかがやきてお
つ

橋本徳寿は「三ケ島葭子歌集」の「解説」で、「葭子は富貴享楽の世界を知らず、一生を貧苦陋巷のあひだにすごした。そして貧陋の世界にある数々の美しさを観た。それを素直に歌ってゐる。」「陋巷に咲く美しい詩の花だ。」と言っている。中川一政は「野稗」第四十二号で、「阿佐緒は鳥のごとく歌い、葭子は獣のごとく歌う。うめき声が聞こえる。」と評している。六十一年には新版「吾木香」（三月）、娘倉片みなみ著「葭子慕情」（八月）が共に水の原社から刊行された。

そうして、今年三月二十六日の葭子の命日を中心にして、「三ケ島葭子全歌集」第一巻（水の原社）の刊行、「第一回吾木香忌」「第一回葭子賞」「第一回葭子展」が同時に、地元所沢市で開催された。絶唱の歌人三ケ島葭子は今に生きているのである。

（日本ペンクラブ会員　榎本　了）

東　西　南　北

◎**第九回『本を読む県民のつどい』**

県民の皆さんが、本に親しみ、図書館活動に対する理解を深めていただくよう「本を読む県民のつどい」を次のとおり開催します。多数の皆様の参加をお待ちしています。

日時　11月5日(木)　13時～15時半
会場　埼玉会館・小ホール
内容⊙読書グループ及び地域・家庭文庫の表彰、活動事例発表
⊙記念講演
講師　江藤淳氏
演題　「ことばとこころ」

※申込み方法　ハガキに住所・氏名・電話番号を明記のうえ、10月28日(木)（当日消印有効）までに県立浦和図書館「本を読む県民のつどい」係（〒336浦和市高砂三の一の二十二・電話〇四八八―二九―二八二一）へお申し込みください。定員（500名）になりしだい締切らせていただきます。定員を超えた場合のみその旨御返信いたします。

10月～12月の主な催し物

■県立浦和図書館

●特別資料展
期間　11月10日(火)～11月15日(日)　9時～17時
内容　「秩父事件に関する資料の展示」

●名作映画会
日時　10月17日(土)　14時
内容　「きみが輝くとき」

●読書週間映画会
日時　10月29日(木)　14時
内容　「枕草子」「徒然草」「源氏物語の世界」

●県民の日映画会
日時　11月13日(金)　14時
内容　「川路聖謨～幕末の外交官」「一世紀前～埼玉県の成立」「維新前夜～飯能戦争～」
日時　11月14日(土)　14時
内容　「秩父事件～絹と民権」「秋蚕しもうて～秩父夜祭り～」

●科学文化映画会
日時　11月26日(木)　14時
内容　「ボケにならないために」「寝たきりにならないために」

●冬の子供映画会
日時　12月12日(土)　14時
内容　「森は生きている～十二月の物語～」「森のトントたちクリスマスクリスマス」

●郷土を知る映画会
日時　11月28日(土)　14時
内容　「ワン・デイ～クワタバンド」

●文芸講演会
日時　12月12日(土)　13時半～15時半
会場　上里町中央公民館
講師　落合恵子氏
演題　「生命（いのち）の感受性」

■県立川越図書館

●郷土を知る資料展
期間　11月10日(火)～11月15日(日)　9時～17時
内容　「埼玉の体育とスポーツ」

●著者を囲むつどい
日時　11月27日(金)　13時～15時
会場　毛呂山町立図書館
講師　今井通子氏（登山家）
演題　「登山と人生」

●名作映画会
日時　10月17日(土)　14時
内容　「泥の河」

●郷土を知る映画会
日時　10月23日(金)　10時・14時
内容　「野鳥とのふれあいを」「蝶がとぶ・森」

●映画の集い～美の世界～
日時　10月29日(木)　14時
内容　「ルーヴル美術館」

●映画と音楽の集い～ジョージ・ロイ・ヒル監督作品～
日時　11月14日(土)　13時半
日時　12月24日(木)　14時
内容　「ふるさとの祭り」「農民のロケット～吉田の竜勢」「甘酒祭り～狭山・梅宮神社～」

■県立熊谷図書館

●郷土を知る資料展
期間　11月10日(火)～11月15日(日)　9時～17時
内容　「秩父の霊場資料展」

●県民の日映画会
日時　11月14日(土)　10時・13時
内容　「龍の子太郎」

●名作映画鑑賞会
日時　10月3日(土)　10時・14時
内容　「切腹」
日時　11月7日(土)　10時・14時
内容　「男はつらいよ～花も嵐も寅次郎～」
日時　12月5日(土)　10時・14時
内容　「羅生門」

●定例映画会
日時　10月23日(金)　15時
内容　「エイズを科学する」「温泉と健康」
日時　11月20日(金)　15時
内容　「山雲響声」「幻の錦」

●ビデオ映画会
日時　10月24日(土)　14時
内容　「アマデウス」

●ビデオコンサート

内容　レコード演奏　30分
　　映画「スティング」
日時　11月28日(土)　13時半
内容　レコード演奏　30分
　　映画　「ガープの世界」

■**県立久喜図書館**

●映画会
日時　10月8日(木)　14時
内容　「女王蜂の神秘」他
日時　10月22日(木)　14時
内容　「老けてたまるか」他
日時　10月29日(木)　14時
内容　「伝統に生きる工業」他
日時　11月5日(木)　10時・14時
内容　「一房の葡萄」他
日時　11月26日(木)　14時
内容　「平安の四季」他

●名画鑑賞会
日時　10月24日(土)　10時・13時半
内容　「彼岸花」
日時　11月28日(土)　10時・14時
内容　「吾輩は猫である」

●郷土資料展
期間　11月10日(火)～11月15日(日)
　　9時～17時
内容　「資料で見る埼玉のまつり」

●県民の日映画会
日時　11月14日(土)　10時・13時・15時
内容　「少年猿飛佐助」

●特別映画会
日時　11月27日(金)　14時
内容　「吾輩は猫である」

●スライドのあとでレコード
日時　10月15日(木)　14時
　　11月12日(木)　14時
内容　スライド　「森の石松」他
　　レコード　「恋し懐かしはやり唄」

全ての催し物は無料です。会場の記入がない場合、いずれも主催館(■印)が会場です。詳細は県立各館へおたずねください。

※県立図書館特別休館日のお知らせ

秋季特別整理のため、下記の期間休館となります。

浦和	熊谷	川越	久喜
10月12日(月)～10月21日(水)		9月28日(月)～10月7日(水)	
移動奉仕・視聴覚業務は平常どおり行います。			移動奉仕・視聴覚業務・障害奉仕は平常どおり行います。
0488 29－2821	0485 23－6291	0492 44－5602	0480 21－2659

読書グループの紹介

たけのこ地域文庫

大井町

たけのこ地域文庫は、昭和四十八年四月に、「鶴ケ丘地域文庫」の名称で発足し、昭和四十九年に現在の名称に改められました。

当時、読書施設としては、公民館図書室と県立図書館の運行する移動図書館のみでした。そのため、鶴ケ丘地区にも「ぜひ文庫を設置してほしい」という声が起こり、県立図書館から図書を借りたり、町から配本を受けて、ボランティアの人々により活動が始められました。

現在では、図書館から借りた千七百冊余りの図書を、毎週火曜日、午後二時半から四時半まで貸出しをしています。

私が参加した昭和五十三年頃には、十名のボランティアが、一週間交代で本の貸出しをし、百名近い子供達が借りに来ていました。十年後の今日では、社会環境も随分変化しています。そのせいか、文庫に来る子供達もこの二、三年でかなり減ってしまい、今では八十名程になりました。当然お母さん方も一年か二年でやめてしまい、現在では六名が、二週間交代で運営に当たっています。

さて、大井町では、現在八つの文庫が活動しています。これらの文庫が集う「文庫の集い」も、昨年から中央公民館の大ホールを使用して多彩に催され、年一回の文庫の祭典として定着しました。この集いでは、八文庫の有志が結成した人形劇団「文(ブン)」が大活躍をします。

文庫の風景

今年は図書館建設の夢がようやくかなえられることになりましたが、これからもたけのこ地域文庫を、子供達と一緒に永く育てて行きたいと思います。（代表・遠藤美恵子記）

本のひろば

科学者の著作

☆天文学者☆

われの星燃えてをるなり星月夜　虚子

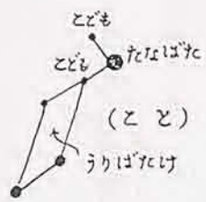
澄みきった大気の中、星がひときわ美しく見える秋です。

そこで今回の「本のひろば」では、明治以降に活躍した日本の天文学者の著作をとりあげてみました。

静かな秋の一夜、にわか天文学者になって、それぞれの〝われの星〟を見つけてみるのも、きっと楽しいことでしょう。

新城新蔵　（明6～昭13）
京都帝国大学宇宙物理学教室の創設者。昭和10年中国に渡り、上海自然科学研究所長に就任。

東洋天文学史研究　弘文堂　昭3　［浦］
迷信　興学会　大14　［浦］
野尻抱影　（明18～昭52）
星の民俗学研究の第一人者。世界各地の星の神話・伝説や文学・美術を天文学と融合して、丹念に分析・考証をすすめた。
大泥棒紳士館　工作舎　昭52　［浦・熊・川・久］
ガリレオ　偕成社（児童伝記シリーズ37）　昭46　［熊］
新星座巡礼　創元社（創元文庫）　昭27　［熊］
新星座めぐり　秋の巻　研究社出版　昭23　［浦］
新星座めぐり　研究社出版　昭32　［浦］
星座巡礼　研究社　大14　［浦］
全天星座図志　鎌倉書房　昭22　［浦］
鶴の舞　―随筆集―　光風社書店　昭47　［浦・熊］
日本星名辞典　東京堂出版　昭48　［浦・熊・川・久］
日本の星　―星の方言集―　中央公論社　昭48　［浦・熊・久］
船乗りシンドバッド　求竜堂　昭54　［浦］
星アラベスク　河出書房新社　昭52　［川］
星恋　深夜叢書社　昭61　［川］
星・古典好日　恒星社厚生閣　昭52　［熊・久］
星三百六十五夜　恒星社厚生閣　昭47　［熊・川］
星と伝説　偕成社　昭36　［川］
星と東方美術　恒星社厚生閣　昭46　［熊］
星の神話・伝説　講談社（講談社学術文庫）　昭52　［川・久］
星の神話伝説集成　―日本及海外篇―　恒星社厚生閣　昭46　［熊］
星の民俗学　講談社（講談社学術文庫）　昭53　［川・久］
星まんだら　―随筆集―　鱒書房　昭31　［浦］



山本一清　（明22～昭34）
大正9年、東亜天文学会を結成、雑誌「天界」を創刊した。私費で山本天文台を創設し、生涯天文学の啓蒙普及につとめた。
星座とその伝説　恒星社厚生閣　昭43　［浦・熊］
星座の親しみ　―天文詩集―　昭45　［熊］
荒木俊馬　（明30～昭53）
揺籃期の日本天文学界をリード。昭和40年、京都産業大学を創立。
宇宙構造論　恒星社厚生閣（天文学全書）　昭37　［浦］
宇宙物理学　恒星社厚生閣　昭45　［熊］
科学論簒　恒星社厚生閣　昭18　［浦］
現代天文学事典　恒星社厚生閣　昭31　［浦］
同　増補新版　昭40　［浦・熊］
同　三訂新版　昭45　［熊］
同　四訂新版　昭46　［川・久］
弧狸窟飄論　―畸山遺珠―　恒星社厚生閣　昭54　［浦・久］
四季の星座　恒星社厚生閣（地学・天文教室）　［川］
質点力学要論　宇宙物理学研究会　昭24　［浦］
西洋占星術　恒星社厚生閣　昭46　［川］
大宇宙の旅　国土社（少年少女科学名著全集）　昭39　［熊・川・久］
天体力学　恒星社厚生閣　昭55　［浦・川］

天文と宇宙　恒星社厚生閣　昭24　［浦］

天文年代学講話　―古代の時を決める話―　恒星社厚生閣　昭26　［浦］

日本暦学史概説　恒星社厚生閣（科学史研究選書）昭35　［浦］

吾輩は水である　恒星社厚生閣　昭28　［浦］

萩原雄祐　（明30～昭54）
惑星系及び衛生系の安定に関する研究で、国際的に活躍。第二次大戦後は、天文台の復興・近代化に尽くした。

星雲の彼方　続　恒星社厚生閣　昭27　［浦］

天文学　岩波書店（岩波全書）昭31　［浦・熊］
同　第二版　昭52　［川・久］

中村　要　（明37～昭7）
多数のレンズ製作・望遠鏡設計に携わる。大正10年、変光星ベルセウス座ZZ、昭和3年、小惑星1928QMを発見。

趣味の天体観測　岩波書店　大15　［浦］

反射屈折天体望遠鏡　―作り方観測手引―　新光社　大4　［浦］

反射望遠鏡　恒星社厚生閣　昭18　［浦］

畑中武夫　（大3～昭38）
直径10メートルのパラボラアンテナ・偏光波計を用いて、太陽面の電波爆発の偏波の構造測定で世界に先鞭をつけた。

宇宙空間への道　岩波書店（岩波新書）　昭39　［浦・熊・川・久］

宇宙と星　岩波書店（岩波新書）昭49　［川・久］

日高郷土史年譜　日高ダイジェスト社　昭25　［熊］

編集後記

今年は例年になく厳しい暑さが続きましたが、九月も半ばを過ぎめっきり秋らしくなりました。夏休中大賑わいだった図書館も静かになり落着いて来たようです。

本号には、「読書の喜びを伝えるために」と題して倉林初男先生の実践活動に根ざした貴重な玉稿をいただき、ありがとうございました。子どもだけでなく大人を含めて本を見ることはしても、読むことをしなくなった現在の世相を改めて考えさせられました。

恒例の秋の行事「読書週間」も十月二七日から始まり、「本を読む県民のつどい」も別掲のように開催されます。この機会に本を読んでみてはいかがでしょうか。

おたずねください

問　珍獣キンクロライオンタマリンのブラジルへの返還で話題となった**ワシントン条約**とは。

答　正式名称は「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora」。「ワシントン条約」とは、一九七三年に条約採択のための全権会議開催地名にちなんだ通称。七五年七月一日より効力が生じている。

この条約は、絶滅のおそれがあるかまたは放っておくと絶滅するおそれがある野生動植物の国際取引を規制して、動植物を保護しようとするもので、規制対象動植物を条約の附属書に掲げており、つぎの三つに分している。

附属書Ⅰ　絶滅のおそれのある動植物

附属書Ⅱ　現在は絶滅のおそれはないが、取引を厳しく規制しなければ絶滅のおそれがある動植物。

附属書Ⅲ　締約国のうちいずれかの国が自国の領域内で規制が必要と考え、他の締約国の協力が必要であるとした動植物。

キンクロライオンタマリンは、附属書Ⅰに該当する。

日本は条約の批准が遅れ、八十年十一月四日より効力が生じている。しかし、適用除外とする留保数が多く、現在（八七年八月）は十四と世界一の留保数。八七年五月二七日にワシントン条約を順守するための国内法「絶滅のおそれのある野生動植物の譲渡の規制等に関する法律」が国会で可決成立。十二月に施行となる。これにより、野放し状態であった国内でも規制されることになった。

主な参考資料

「官報」昭和五五年八月二三日号外第五五号
「月刊海外市場」一九八一年七月
通巻三五七号　六六～六九頁
「自然保護」一九八七年七月
通巻三〇二号　十三頁